

動物実験に関する自己点検・評価報告書

鳥取大学

平成 24 年 11 月

## I. 規程及び体制等の整備状況

## 1. 機関内規程

## 1) 評価結果

- 基本指針に適合する機関内規程が定められている。
- 機関内規程は定められているが、一部に改善すべき点がある。
- 機関内規程が定められていない。

## 2) 自己点検の対象とした資料

鳥取大学動物実験規則（鳥取大学規則第 14 号）  
 鳥取大学動物実験委員会米子地区専門委員会規定  
 鳥取大学動物実験委員会鳥取地区専門委員会規定  
 動物実験管理体制図

## 3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。）

基本指針に即した機関内規定が定められている。米子地区では医学部の医学研究が、鳥取地区では農学部獣医学科の教育研究、獣医学研究が中心となり研究が行なわれている。それぞれの動物実験の目的に併せてそれぞれの地区専門委員会規則が定められている。

## 4) 改善の方針、達成予定時期

該当せず

## 2. 動物実験委員会

## 1) 評価結果

- 基本指針に適合する動物実験委員会が置かれている。
- 動物実験委員会は置かれているが、一部に改善すべき点がある。
- 動物実験委員会は置かれていない。

## 2) 自己点検の対象とした資料

鳥取大学動物実験規則  
 鳥取大学動物実験委員会米子地区専門委員会規定  
 鳥取大学動物実験委員会鳥取地区専門委員会規定  
 鳥取大学動物実験委員会名簿

## 3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。）

基本指針に即した動物実験委員会が設置されている。米子地区では医学部の医学研究が、鳥取地区では農学部獣医学科の教育研究、獣医学研究が中心となり研究が行なわれている。それぞれの地区に専門委員会を設けている。

4) 改善の方針、達成予定時期

該当せず

### 3. 動物実験の実施体制

(動物実験計画書の立案、審査、承認、結果報告の実施体制が定められているか?)

#### 1) 評価結果

- 基本指針に適合し、動物実験の実施体制が定められている。
- 動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。
- 動物実験の実施体制が定められていない。

#### 2) 自己点検の対象とした資料

鳥取大学動物実験規則、計画書などの様式、平成 23 年度動物実験委員会審査フローチャート、動物実験計画申請書記入要領、動物実験に関する Q&A、動物実験計画書審査要領、動物実験報告書(年次、終了報告書)の審査要領、飼養保管施設、実験室自己点検報告書の評価要領

#### 3) 評価結果の判断理由(改善すべき点があれば、明記する。)

動物愛護の 3R の原則ならびに基本指針に即した実施体制が整っている。

#### 4) 改善の方針、達成予定時期

該当せず

### 4. 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制

(遺伝子組換え動物実験、感染動物実験等の実施体制が定められているか?)

#### 1) 評価結果

- 基本指針に適合し、安全管理に注意を要する動物実験の実施体制が定められている。
- 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。
- 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制が定められていない。
- 該当する動物実験は、行われていない。

#### 2) 自己点検の対象とした資料

鳥取大学遺伝子組換え実験安全管理規定、鳥取大学遺伝子組換え実験専門委員会細則、鳥取大学放射線安全委員会規則、鳥取大学生物災害等防止安全管理規則、鳥取大学化学物質管理規程

#### 3) 評価結果の判断理由(改善すべき点があれば、明記する。)

安全管理に注意を要する動物実験に関する規則、規定が定められ、実施体制が整備されている。

## 4) 改善の方針、達成予定時期

該当せず

## 5. 実験動物の飼養保管の体制

(機関内における実験動物の飼養保管施設が把握され、各施設に実験動物管理者が置かれているか?)

## 1) 評価結果

- 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

## 2) 自己点検の対象とした資料

平成 24 年度実験動物飼養保管施設、実験室一覧表、飼養保管施設設置承認申請書、実験室設置承認申請書、飼養保管施設自己点検評価報告書、実験室自己点検評価報告書、飼養保管施設・実験室自己点検評価審査要領

## 3) 評価結果の判断理由(改善すべき点や問題があれば、明記する。)

学内のすべての飼養保管施設、実験室が把握されている。基本指針及び鳥取大学動物実験規則に沿って施設毎に実験動物管理者がおかれ、適切に管理されている。また鳥取地区(主に農学部獣医学科)及び米子地区(医学部)の共同の動物実験施設は生命機能研究支援センターの管理で適切に管理されている。ただし搬入した動物の個体台帳等が整備されていない施設があり、視察、評価した委員より H24 年度以降は、各施設で個体台帳等を整備するように指示をした。また一部施設では、老朽化による空調の不備などがあるため修理などを行なう必要がある。

## 4) 改善の方針、達成予定時期

動物個体台帳などの整備されていない施設に関しては、改善を行う。空調の不備に関しては、予算請求を行ない、一部 H24 年度で改修を行う予定である。

## 6. その他(動物実験の実施体制において、特記すべき取り組み及びその点検・評価結果)

米子地区(医学部)では遺伝子改変マウスの利用が多い。そのため遺伝子組換え安全委員会との連携を高めて、相互に検証できるシステムの構築を検討している。

## II. 実施状況

## 1. 動物実験委員会

(動物実験委員会は、機関内規程に定めた機能を果たしているか?)

1) 評価結果
<input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、適正に機能している。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料
鳥取大学動物実験規則、鳥取大学動物実験委員会名簿、鳥取大学動物実験委員会議事要旨、各委員会審査メール記録
3) 評価結果の判断理由 (改善すべき点や問題があれば、明記する。)
動物実験計画の審査、飼養保管施設・実験室の審査、教育訓練、情報公開、自己点検評価の実施において、委員会の役割を十分に果たしている。
4) 改善の方針、達成予定時期
該当せず

## 2. 動物実験の実施状況

(動物実験計画書の立案、審査、承認、結果報告が実施されているか?)

1) 評価結果
<input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、適正に動物実験が実施されている。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料
鳥取大学動物実験委員会議事要旨、平成 23 年度に行なった動物実験計画書一覧、平成 23 年度動物実験年次報告書、平成 23 年度動物実験終了報告書、各種報告書の集計結果
3) 評価結果の判断理由 (改善すべき点や問題があれば、明記する。)
すべての実験計画に関して適切な報告書が提出され、委員会により評価され、適正化に向けてアドバイスがされている。
4) 改善の方針、達成予定時期
該当せず

## 3. 安全管理を要する動物実験の実施状況

(当該実験が安全に実施されているか?)

## 1) 評価結果

- 基本指針に適合し、当該実験が適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。
- 該当する動物実験は、行われていない。

## 2) 自己点検の対象とした資料

鳥取大学動物実験委員会議事要旨、平成 23 年度に行なった動物実験計画書一覧、平成 23 年度動物実験年次報告書、平成 23 年度動物実験終了報告書、各種報告書の集計結果

## 3) 評価結果の判断理由 (改善すべき点や問題があれば、明記する。)

安全管理を要する動物実験は、法令及び本学の規則に則して安全に実施されている。

## 4) 改善の方針、達成予定時期

該当せず

## 4. 実験動物の飼養保管状況

(実験動物管理者の活動は適切か? 飼養保管は飼養保管手順書等により適正に実施されているか?)

## 1) 評価結果

- 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

## 2) 自己点検の対象とした資料

平成 24 年度実験動物飼養保管施設、実験室一覧表、飼養保管施設設置承認申請書 (飼養保管施設のマニュアルを含む)、実験室設置承認申請書、飼養保管施設自己点検評価報告書、実験室自己点検評価報告書、飼養保管施設・実験室自己点検評価審査要領、生命機能研究支援センター動物資源開発分野動物実験施設関連書類 (マニュアル、実験動物搬入記録、微生物モニタリング検査成績)

## 3) 評価結果の判断理由 (改善すべき点や問題があれば、明記する。)

すべての飼養保管施設に関して、委員会委員による視察を行なった。すべての飼養保管施設で利用マニュアルが整備されて、基本指針に則した形で管理者および実験動物管理者が管理している。ただし、

実験動物の搬入記録が整備されていない施設が確認された。次年度以降、管理台帳を整備するように委員会より指導を行なった。

生命機能研究支援センター動物資源開発分野動物実験施設（米子地区）では、年 4 回国立大学動物実験施設協議会の実験動物の授受に関するガイドラインに従い年 4 回微生物モニタリングを行なっている。また他の飼養保管施設からの感染防止の為に、動線やマニュアルの整備を行なっている。

生命機能研究支援センター動物飼養実験分野動物実験施設（鳥取地区）では、コンベンショナル施設であるため特に微生物モニタリングは実施していないが、動物搬入の際に購入動物の場合は SPF グレードであること、他施設からの搬入の場合は微生物検査を課すなど動物の品質について確認をしている。

#### 4) 改善の方針、達成予定時期

引き続き、動物実験委員による立ち入り調査を定期的に行ない、状況に応じて改善指導を行なう。

### 5. 施設等の維持管理の状況

（機関内の飼養保管施設は適正な維持管理が実施されているか？ 修理等の必要な施設や設備に、改善計画は立てられているか？）

#### 1) 評価結果

- 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に維持管理されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

#### 2) 自己点検の対象とした資料

飼養保管施設自己点検評価報告書、実験室自己点検評価報告書

#### 3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。）

一部施設では、老朽化による空調の不備などがあるため修理などを行なう必要がある。生命機能研究支援センター動物資源開発分野動物実験施設（米子地区）では空調管理のモニターシステムを 20 年前のコンピュータシステムで行なっており、交換の部品等既に製造中止になっているものが多数存在する。それ以外の設備に関しても交換不可能な部品が多数存在しており、抜本的な改修を計画する必要がある。

#### 4) 改善の方針、達成予定時期

生命機能研究支援センター動物資源開発分野動物実験施設の空調の不備に関しては、予算請求を行ない、一部 H24 年度で改修を行う予定である。

### 6. 教育訓練の実施状況

(実験動物管理者、動物実験実施者、飼養者等に対する教育訓練を実施しているか?)

<p>1) 評価結果</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。</p> <p><input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。</p>
<p>2) 自己点検の対象とした資料</p> <p>平成 23 年度教育訓練受講者一覧、平成 23 年度教育訓練資料</p>
<p>3) 評価結果の判断理由 (改善すべき点や問題があれば、明記する。)</p> <p>米子地区 (年 14 回)、鳥取地区 (適時開催) とともに委員会委員により、教育訓練を実施した。すべての動物実験実施者 (責任者を含む) はすべて教育訓練受講者であった。</p>
<p>4) 改善の方針、達成予定時期</p> <p>該当なし</p>

## 7. 自己点検・評価、情報公開

(基本指針への適合性に関する自己点検・評価、関連事項の情報公開を実施しているか?)

<p>1) 評価結果</p> <p><input type="checkbox"/> 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。</p> <p><input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。</p>
<p>2) 自己点検の対象とした資料</p> <p>鳥取大学ホームページ (動物実験委員会、生命機能研究支援センター)</p>
<p>3) 評価結果の判断理由 (改善すべき点や問題があれば、明記する。)</p> <p>鳥取大学動物実験規則を本学ホームページで公開している。</p> <p>鳥取大学動物実験委員会名簿を本学ホームページで公開している。</p> <p>鳥取大学生命機能研究支援センター動物資源開発分野動物実験施設 (共同実験施設) での飼養保管状況、利用状況、活動報告などを平成 14 年度より、本学ホームページで公開している。</p>
<p>4) 改善の方針、達成予定時期</p> <p>H24 年度以降は、共同実験施設以外での飼養保管状況を把握して情報公開する。</p>



## 8. その他

(動物実験の実施状況において、機関特有の点検・評価事項及びその結果)

鳥取地区では主に農学部獣医学科の教育研究として、すべてコンベンショナルな環境で動物実験が行われている。米子地区では医学部の医学生物学研究として、主に SPF 環境下で動物実験が行なわれている。それぞれの地区での施設の整備状況や動物実験の目的が異なるため、モニタリングや飼育管理体制を同一にすることは困難ではあるが、動物愛護の 3R の原則ならびに動物実験にかかわる指針や法令を遵守するように全学の委員会、地区専門員会ならびに施設運営会議（鳥取地区）を設けるなど管理体制を整備している。